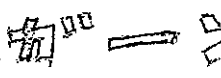


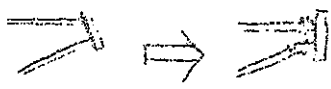
夏合宿

下 正純

退屈しながらも、無事にフェリーは、
 苫小牧に着いた。雨。不安を感じなが
 ら出発すると、五分もしないうちに、
 ワ〜、時計がない!! ありて朝食をと
 った食堂へもどった。あった、あった、
 えがった〜。というわけで、その夜は
 新冠のキャンプ場。何か知らんが、そ
 の夜は、雨の祭かあるという事で、一
 晩中うるさかった。その上、食事をし
 ようとしたら、『夕べの集山、予想通り
 『朝の集山』を行って、次の朝、明けのわか
 らんキャンプ場をあとにした。ひたす
 ら、襟裳岬へGO! この辺りの地形は
 どないな〜とるんじや。坂、坂、坂。
 例のごとく、嶋田が大ハリキリ。しか
 し、景色は良かった。その夜は、百人

乗キャンプ場。誰かが忘れて行ったス
イカをもらって、みんなご満悦。翌日
幸福駅。三浦さんの名刺を極に張って
きた。熊本大学の人達は、旗をはって
いた。差をつけやがって。丸内川の川
原でテントをハット。翌朝、愛国駅で
駅宿をした熊大にありさつをして、橋
平組人。その夜は、フェリー以来初め
での風呂。その後、最終日の旅館まで
はいれなると誰か予想できただろう。
次の日は、運命の日。三国峠のダート
を無事に~~??~~に越えた。大雪峠附近。え
え景色ジャの～。ゆるやかな坂を登り
きって、カーブを曲って、ゆるやか
な下り。自動車が一台中止している。背
後に小林さんが走っているのを感じな
から、自動車をよけたが、小林さん

は、どうしたわけか、よける気配がない。
「危ない!!」の声もおそく、 みごと
とにぶつかった。直から、初老の夫婦が
トウモロコジをかじりながら、出て来
た。小林さん、しばし放心状態。

 みごととにまっ、すぐにぶ
つかったので、フレームの方もきれい
にまがった。前輪がフレームにこす
るを気にしながら、何とか層雲峡キャ
ンプ場へたどり着く。翌日、午前中は
自転車をお忘れ、黒岳登山、午後は、小林さんのお、山形守りで、層雲
峡めぐり。翌々日、恐怖の修理。旭川
の店で、カマかせに引きあばした。大
成功!! 「今度やったらおわりだよ」の
言葉を背に、再び出発。その夜は、道
路だか何だかわからんキャンプ場に泊

まる。近所のガキどもが きもだめし
をやっている、時々我々のテントのす
ぐ横でバクバクを鳴らして、~~此の音~~
カ〜と思いつつ、安らかな??眠りにつ
けなかつたのよ!! ねまた〜。ここ
で、紙面の関係により(実は、~~●~~作者
の気力の関係により)数日間ワ〜ワ。
と言うわけで、運命の泉谷岬。斎藤:
酒井班に遭遇。ワ〜!! の。勿言かてた!!
じゃなかつた...副島じゃった。稚内のキ
ャンプ場は寒かつた。初めてテントの
中で夕食をとった。さび〜!! 翌日か
ら島めぐり。海水浴もやったべ〜。以
降、サロヤツ原野のガートをホコリを
あびながら ひたすら、札幌めぐり南
下、南下。全日テント、食って、寝て
走る生活に終止符を打った札幌に無事到着。